



この一年を振り返って

戦争法を廃止するためにさらなる運動を強めましょう！

昨年12月の総選挙で自民党と公明党は、小選挙区で231人(295議席中)と78%の議席の獲得をしました。安倍首相は、集団的自衛権行使の容認など安保関係については争点化を避け、経済一本やりで突っ切りました。

4月に首相はアメリカを訪問。同行した外相と防衛相は「新・日米防衛ガイドライン」を結びました。首相は米議会での演説で新たな法律を「夏の初めまでに成立させる」と発言しました。これらのことは今般の戦争法を考える上で重要な意味を持っています。国会にも提案していない法律を、首相が外国での演説で約束してしまうということが一つ。中身については、アメリカとの約束が先にあることを法制化していったということ。

5月15日に「戦争法案」が国会に提出されました。審議では、防衛相も答弁に窮し委員会が頻りにストップしました。想定していた事態についても、質問で追及され、まともにこたえられない状況でした。多くの国民が政府の説明が不十分だと感じ、憲法学者や法律界の多くの人から「違憲」の法律と指摘されました。しかし、政府・与党は数の力をもって衆議院を通過させました。

参議院の審議でますます法案の危険性があらわになっていく中で、8月30日には国会周辺から日比谷公園に至るまでに10万人以上の人々が参加して抗議集会が持たれました。今までデモとか集会などに参加したこともなかった、学生やママやお年寄りがいてもたってもいられなくなって参加してきた、という状況になってきました。国会内の野党の共闘も目につくようになってきました。

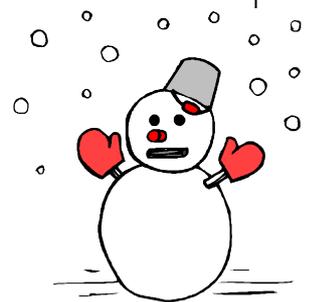
9月17日には参議院の特別委員会で「議場騒然。聴取不能」と議事録に記載されているにもかかわらず採決されたとして、19日の未明に参議院本会議で強行採決され戦争法は成立しました。

運動を進めてきた人たちの話を聞くと、この採決で挫折感を感じた人はほとんどいないということです。私もそう思っています。野党共闘の動きがすぐ出てきましたし、「戦争させない、九条壊すな！総がかり行動実行委員会」は2000万人署名行動を呼びかけました。11月13日に開かれた九条の会の「鶴見俊輔さんの遺志を継いで」会合では、呼びかけ人(大江健三郎さん、澤地久枝さん)のアピール(別添)が出され、各地の九条の会がそれぞれの地域で宣伝活動を強化し、戦争法を廃止するために立ち上がろうと呼びかけました。

来年夏には参議院選挙があります。野党が共闘し、昨年の衆議院選挙の逆を実現すれば、戦争法の廃止に向けて大きな展望が開けます。参議院の一人区は32議席分あります。ここで共闘が成功し、自民・公明の議席を奪うことが大きな力になります。

代田・九条の会は昨年より下北沢周辺での街頭行動を行ってきました。署名活動では近寄って署名をしていく人が数多くなっています。これからも活動を続けていきます。2000万署名のためには5人に一人が目標です。多くの皆様が九条の会の活動に参加されるように訴えます。

(代田2丁目・伊東 宏)



日本国憲法 (抜粋)

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～

高岡岑郷さんを偲ぶ会に参加して

さる6月26日に80歳で急逝された代田・九条の会の呼びかけ人の一人であった故・高岡岑郷さんを偲ぶ会が、東京都教職員組合・東京革新懇・国民学校一年生の会などの有志で結成された実行委員会の主催で、11月24日に開かれ、当会からも4名が参加して来ました。

高岡さんは長い間、上記団体などの主要メンバーとして平和運動、護憲運動に活躍・貢献された方でした。偲ぶ会の参加者も300人を超え目を見張りました。

会は、橋本左内さん（国民学校一年生の会）の司会で進められ、畑田重夫（国際政治学者）、都丸哲也（元保谷市長）、小林節（慶大名誉教授）、小池晃（日本共産党副委員長・参院議員）各氏がスピーチされ、高岡さんの足跡をたどるスライドが上映されました。合唱団「この灯」が高岡さん作詩のカンタータ「今この町に生きている君たち」などを歌いました。

私は、高岡さんの活動ぶりと交友の広さを今更ながら知り、いろいろと御多忙にもかかわらず居住地の代田・九条の会によせられた貢献の大きさに感謝するとともに、改めてご冥福をお祈りするばかりです。
(代田5丁目・野間口 至)

フォーラム「フェス・731の記憶」に参加して

11月14日に大田区民ホールにて、1933年から1945年にわたり中国北西部のハルビン市で細菌兵器の製造と人体実験、細菌戦などを行った日本軍731部隊についての講演と元731部隊員の証言（DVD上映）、写真や裁判記録などの展示によるフォーラムが開かれました。

中国ハルビン市にある「侵華日軍731部隊罪証陳列館（今年8月には新館も開設）」館長の金成民さんが招待講演を行いました。731部隊の行った反人類的行為の罪責と危害を暴き、人びとに「歴史を銘記し、過去を忘れず、平和を愛し、未来を指向する」と呼びかける陳列館の意義を語りました。遺跡の保護と世界遺産登録を目指す市民運動や、731部隊の実態解明の現状などについての講演もありました。

中国政府や日本の市民団体のこのような取り組みに対して、日本政府は関わりを持たずしていません。そのことは裁判の記録からも分かります。

1955年と97年に731部隊の人体実験による殺害行為や細菌戦による被害者と遺族は、日本政府に謝罪と賠償を求める訴訟を東京地裁に起こしました。いずれも日中共同声明（1972年）で解決済みとして、請求が棄却されました。しかし、裁判では、人体実験と細菌戦の事実が明確に認定され、日本国が中国国民に真摯に謝罪すべきとの見解が示されました。また被害者への保障は国内法によって対処できるとし、日本政府はその対応を促されてもいます。

このような裁判での指摘にもかかわらず、加害の事実を認めず、被害者への賠償をせず、被害者を慮る配慮もないことが日本政府の実体です。

「歴史を銘記する」との館長の言葉は日本政府に向けられたものと思いますが、同時に我々に発せられたものと受け止め、歴史を歪め退行させようとする安倍政権に、また全ての反動的な動きに対抗したいと思っています。
(代田2丁目・坂本 功)

集会等の紹介

12月19日（土） 午後2時～ 開場13時30分

自衛隊を戦場へ送るな！総がかり講演集会

講演：「戦争法と自衛隊」 井筒 高雄（元自衛官）

「自衛官の家族相談から」高木 太郎（弁護士）

政党挨拶／リレートーク

場所：北とぴあ・あくらホール（JR京浜東北線・王子駅・徒歩2分）

主催：戦争させない、九条壊すな！総がかり行動実行委員会



お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。
また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。